

# 性的少数者をめぐる米国の社会変化

日系ブラジル人エマ

ソン・カネクスケさん

(40)との同性婚を公表し

ている大阪・神戸米国総

領事パトリック・リネハ

ンさん(60)。性的少数者

をめぐる米国の社会変化

をテーマに松山市で講演

した後、市民の質問に答

えた。



「なぜカナダで結婚したのですか。」

「当時、カナダで勤務していましたからです。われわれが知り合ったのは2002年。米国ではマサチューセッツ州で04年に初めて同性婚が認められ、その時、私はエマーソンにアプローチしました。でも当時はブラジルに住んでいたので同性婚はできませんでした。最初のチャンスが、カナダにいた07年でした。」

「その時には既に米国でも同性婚が認められていましたよね。」

「マサチューセッツ州の場合、当時は米国市民にしか同性婚を認めていませんでしたが、カナダでは誰もが同性婚できました。」

「カナダでの同性婚は

そのまま米国でも認められるのですか。

同性婚を認めている州では認められます、州ごとに結婚のルールなど

が違うので非常に複雑で

ます。」

「お仕事の話を聞かせ

てください。

1984年に外交官に

なりました。就任2日目

に警備責任者から「米国

政府にホモセクシュアル

のための部屋はありません

。面白いことに、婦人

会のメンバーは私のペー

トナーがエマーソンであ

る。たまにびっくりす

る人もいますが、ほとん

どの若者や女性は理解し

てくれます。高齢の男性

マーソンは関西日米婦人

会の名誉会長です。77年

日本人は、エマーソン

と私がどこに行つても力

ベントに参加します。エ

ップルとして歓迎してく

ります。」

「日本では男性が仕事

の中には理解が難しい人

がいます。不思議な顔をし

ていますが、お二人はどのように分担

していますか。

「日本では男性が仕事の中には理解が難しい人

がいます。不思議な顔をしていますが、お二人はどのように分担していますか。私は朝型人間、エマーンは夜型人間。2人がそろって完璧な人間に

なる。2人ともそれぞれ

「奥さんはどういち?」と聞かれる。「同性婚なので、2人とも夫です」と

答えています。理解され

るまでに少し時間がかかることがあります、日本で差別的な対応を受けたことはありません。

「日本では男性が仕事

をして女性が家事をする

ことが多いのですが、お

二人はどのように分担

していますか。

「私は朝型人間、エマ

ーンは夜型人間。2人

がそろって完璧な人間に

なる。2人ともそれぞれ

好き嫌いがあります。彼は料理がうまい。私は料理には興味がないが、食べるの大好き。掃除などは私の方が得意です。」

「日本では、どうすれば性的な少數者が生きやすい社会にできると思いますか。」

## 州で異なる結婚ルール

なら辞めてください」と言されました。

外交官になるのは非常に難しい。試験が難しい上に身辺調査もありますが、私はパスしました。私はそういう差別を感じ法違反だと思いましたが、最初の10年間くらいはゲイだということを公表できませんでした。

「ゲイカップルとして居心地が悪いと感じたことはありますか。」

現在の米国では、ほとんどの닙니다。25年前に初めて日本に来たときにある日本人が「日本にはゲイはいませんよ」と言つていましたが、日



市民の質問に答えるリネハンさん(右から3人目)

社会の変化は段階的で時間がかかります。米国などと違い、日本では宗教に由来する性的な少數者の差別や憎しみは見えない。ただ、知識や意識が不足しています。最も大変なのは、人の意識を変えること。その方法の一つは、できる人から公